

ありたい姿

9. 市民が生き生きとやさしさにあふれた地域で暮らしています

政策 17

健康寿命の延伸

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 新型コロナウイルス感染症のまん延により、市民の健康づくり活動および経済活動が低下しています。
- 加齢とともに、高血圧症、糖尿病および脂質異常症など生活習慣病を有する人の割合が高くなる傾向にあります。
- 「悪性新生物（がん）」「心疾患」「脳血管疾患」の生活習慣病が、死因の約50%を占めています。
- 特定健康診査やがん検診など各種健(検)診を地域や医療機関で実施しています。
- 後期高齢者医療制度における対象者は年々増加しており、また、一人当たり医療費は、制度発足時の平成20年度は約90万円だったが、医療の高度化等により、令和2年度は約107万円で、12年間で17万円伸びています。

課題

- 市民の一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」という認識のもと、子どもから高齢者まで、健康的な生活習慣づくりと心身機能の維持、向上に取り組むことが必要です。
- 各種健(検)診の受診率が低く、自らの健康意識の向上につながる取り組みが必要です。
- 医療、健診、介護の情報等を共有し、高齢者等の保健事業の接続、フレイル予防および介護予防の取り組みが必要です。

施策計画

1. 健康づくりの推進

- 市民の健康に対する意識が、地域全体の意識として高まり、健康に心がける人が増える地域づくりを目指します。
- 企業、地域およびボランティア等と連携し、市民の健康づくりを応援する環境づくりを推進します。

成果指標名	現状値	前期目標値
健康ポイント事業参加者数	4,530 人 (R3年度)	5,100人 (R7年度)
(重複) 週1回以上のスポーツ実施率	59.4 % (R3年度)	64.0 % (R7年度)

2. 生活習慣改善の推進

- 適正な栄養や食生活、身体活動、運動、休養、こころの健康、禁煙、適正飲酒、歯や口腔の健康等、市民がより良い生活習慣を身につけ、生涯を通じた健康づくりを推進します。
- がん検診などの各種健（検）診の受診環境を整備するとともに受診率の向上に取り組むことで、疾病の発症予防、早期発見、早期治療、重症化予防を推進します。
- 感染症に関する正しい知識の普及啓発を図るとともに、予防接種等の実施により、感染症の発生とまん延防止に努めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
健康に気をつけて生活している市民の割合	85.1 % (R3年度)	86.0 % (R7年度)

3. 保健事業と介護予防等の一体的な取り組みの推進

- 国民健康保険では、特定健康診査および特定保健指導の受診率向上を図る生活習慣病を起因とする疾病の予防、疾病の早期発見、早期治療につなげることで、医療費の適正化に努めます。
- 後期高齢者医療保険では、保健事業、地域支援事業、健康づくり事業を共有し、国保データベースの活用によりデータ分析を行うとともに、通いの場等への積極的な関与により、健診受診率向上、生活習慣病の予防、重症化予防およびフレイル予防の充実に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
平均自立期間（健康寿命）	男：79.2歳 女：83.9歳 (R3年度)	男：80.5歳 女：84.8歳 (R7年度)

分野別計画

天草市地域福祉計画・地域福祉活動計画、健やか生きいきプラン、天草市健康増進計画

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける
行政組織
運営に



へ

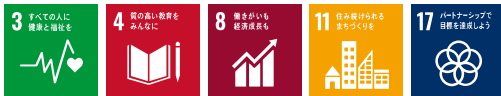
ありたい姿

9. 市民が生き生きとやさしさにあふれた地域で暮らしています

政策 18

安心して医療・介護が受けられる体制の強化

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 市立病院をはじめ市内の医療機関で医師および看護師が不足しています。
- 市立病院は救急医療や不採算医療を提供しているが、人口減少等の影響で患者数が減少していることに伴い、経営が厳しい状況です。
- 少子化により子どもの数が減少する中、卒業生の多くが進学や就職のため市外へ転出しています。同様に、看護職希望者においても、看護系大学や看護専門学校等への進学および就職のため市外への流出が続いています。
- 市内の地域によっては医療機関がなくなるなど、地域間格差が生じています。国民健康保険および後期高齢者医療制度は、高齢者や低所得者の加入割合が高く、医療費水準も高いことから財政運営が厳しい状況です。
- 高齢者人口はほぼ横ばいとなっているが、高齢化率は年々上昇を続けています。

課題

- 市立病院は持続可能な医療提供体制を確保する必要があります。
- 看護職へ意欲のある学生の確保を図るとともに、本渡看護専門学校の定員確保に努める必要があります。
- 市内医療機関への就職率向上の取り組みをさらに強化する必要があります。
- 専門医（産婦人科、小児科等）および看護師を継続的に確保する必要があります。
- 医療機関の地域間格差の是正に取り組む必要があります。
- 国民健康保険および後期高齢者医療制度における一人あたり医療費の伸びの抑制が必要です。
- 高齢化が進行する中、将来にわたり介護保険制度が安定的に運営できる体制の構築が必要です。

施策計画

1. 市立病院の効率的な活用

- 熊本県や関係機関と連携し、医師をはじめとした医療従事者の確保に取り組みます。
- 各市立病院が機能連携を行いながら地域に必要な医療を提供することで、持続可能な医療提供体制を確保します。

成果指標名	現状値	前期目標値
市立病院の病床利用率（結核病棟を除く）	67.9 % (R3年度)	80 %以上 (R7年度)

2. 地域の保健医療に貢献する看護師の育成

- 本渡看護専門学校においては、地域の保健医療福祉を担う看護師を養成するため優秀な学生を確保し、国家試験の全員合格および市内医療機関との連携による市内就職率の向上を更に図ります。
- 社会構造の変化、医療技術の進歩、医療提供の場の多様化等により、変化してきている医療環境に柔軟に対応できる看護師の育成を進めます。
- 学生が充実した学びができるよう、学校の施設および設備の充実を図り、学校の価値と魅力度を高めます。
- 市内医療機関との連携を密にし、効果的・実践的な臨地実習の実施を主とした教育の充実を進めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
卒業生の市内医療機関への就職率	52.9 % (R3年度)	50.0 %以上を維持

3. 安心できる地域医療体制の整備

- 医師および看護師等修学資金制度により継続的な医療人材の確保に取り組みます。
- 専門医(産婦人科、小児科、麻酔科) 確保のための支援を地域拠点病院等に行います。
- 医療機関の地域間格差を可能な限り是正するため、天草郡市医師会および関係機関等との連携強化に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
天草市医師修学資金制度利用者数	8人 (R3年度)	10人 (R7年度)
天草市看護師等修学資金制度利用者数	74人 (R3年度)	134人 (R7年度)
天草地域の医療体制に満足している市民の割合	44.5% (R3年度)	47.5% (R7年度)

4. 国保・後期・介護保険制度の安定運営

- 国保税等の適正賦課および収納率の向上に取り組みます。
- 医療費および介護給付費の適正化に向けた取り組みを推進します。
- 国民健康保険、後期高齢者医療制度および介護保険制度の安定運営に努め、安心して利用できるよう情報を提供します。

成果指標名	現状値	前期目標値
国民健康保険保険者努力支援制度における得点率	67.0% (R3年度)	70.0% (R7年度)
要介護(支援)認定者の在宅率	68.5% (R3年度)	68.5% (R7年度)

分野別計画

天草市立病院経営強化プラン

この政策が関連する『ありたい姿』

10. 安心して子どもを産み育てられるまちができています
11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける行政運営
取り組むまち



ありたい姿

9. 市民が生き生きとやさしさにあふれた地域で暮らしています

政策 19

ともに支え合う地域福祉の充実

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 核家族化と単身世帯化が進み、高齢者のみの世帯が増加しています。
- 少子高齢化や生活様式の多様化により、地域コミュニティが希薄化しています。
- 社会的孤立の問題が深刻化しています。
- 複合的な生活課題を抱えた生活困窮者が多くなっています。

課題

- 安心して地域で暮らせる見守り体制の強化と地域住民との連携が必要です。
- 高齢の親とひきこもりの中高年の子が同居し、収入や介護等に関する問題が発生する8050問題や子育てと親の介護が同時期に発生するダブルケアの問題など、個人や世帯が抱える複雑化、複合化した生活課題に対する支援体制の強化が必要です。
- 生活困窮者の抱える多岐にわたる課題解決への取り組みが必要です。

施策計画

1. 安心して地域で暮らせる環境づくり

- 日頃からの見守り、災害時の避難支援等の地域住民の共助による活動充実を図ります。
- 中心的な役割を果たす行政区や民生委員・児童委員、団体等の活動を支援します。
- 市民活動団体や社会福祉協議会等と連携して、地域住民が進んで地域支え合い活動に参加できる環境づくりに取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
ボランティアの登録団体数	72 団体 (R 3 年度)	80 団体 (R 7 年度)
ボランティアの登録人数	913 人 (R 3 年度)	950 人 (R 7 年度)
地域福祉に関するボランティアや支援活動に参加したことがある市民の割合	23.2 % (R 3 年度)	26.0 % (R 7 年度)

2. 地域生活課題への相談・支援体制の構築

- 複雑化、複合化した各種制度の狭間にある課題に対応する支援体制を構築します。

成果指標名	現状値	前期目標値
困ったときに相談できる人や場所が地域にいる（ある）と感じる市民の割合	46.8 % (R 3 年度)	48.0 % (R 7 年度)

3. 生活に困窮している人への自立支援

- 生活の安定と自立助長を促すための支援を行います。
- 生活保護に至る前の自立支援策の強化に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
自立相談支援事業により生活再建が図られた件数の割合	57.8 % (R 3 年度)	60.0 % (R 7 年度)

分野別計画

天草市地域福祉計画・地域福祉活動計画

この政策が関連する『ありたい姿』

10. 安心して子どもを産み育てられるまちができています
12. 市民との協働による安心安全なまちづくりができています

ありたい姿

9. 市民が生き生きとやさしさにあふれた地域で暮らしています

政策 20

高齢者の生きがいの推進

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 高齢者人口に大きな変動は無く横ばい状態にあるのに対し、若い世代の人口の減少により、高齢化率が上昇しています。
- 若い世代の人口減少は、高齢者を支える世代の減少であると同時に、介護職等に従事する専門職の減少につながっています。
- 高齢者のみ世帯の増加や団塊の世代の高年齢化が進み、支援を必要とする人が増加することが予測されます。
- 平成27年度から介護予防の取り組みを強化した結果、要支援認定者や虚弱高齢者の人数は減少しており、ピーク時と比較すると約25%減の状況にあります。
- 要介護認定者数は横ばいの状況にありますが、要介護認定者に占める認知症高齢者の割合は高く、認知症が要介護状態となる一番の要因となっています。

課題

- 介護職等の支え手の減少が続く中、支援を要する高齢者が増加すると、今後、必要とする人に必要なサービスが行き届かなくなることが懸念されます。
- 高齢者の社会参加や生きがいのづくり、認知症予防を含めた介護予防を推進し、支援や介護を要する高齢者が増加しないようにする必要があります。
- 介護等の専門職サービスだけでなく、元気な高齢者や地域団体、民間事業所等も支え手となり、地域ぐるみで高齢者を支えていく体制づくりが必要です。

施策計画

1. 高齢者が生き生きと暮らせる仕組みづくり

- 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも健康で生き生きと暮らせるため、日常生活の支援、介護予防活動および認知症予防活動の取り組みを推進します。
- 高齢者が地域の担い手として地域活動や社会貢献できる仕組みづくりを推進します。
- 働く意欲のある高齢者がその知識や技能を発揮し、生きがいを持って活躍できる環境整備を推進します。

成果指標名	現状値	前期目標値
地域介護予防活動参加者数（週1回以上）	3,400 人 (R3年度)	3,150 人 (R7年度)
脳いきいきサポーター養成者数（累計）	372 人 (R3年度)	500 人 (R7年度)

2. どんな時も安心して生活ができる地域づくり

- 認知症や支援が必要な状態になっても安心して日常生活を過ごせるよう、市民が身体機能の低下や認知症を正しく理解し早期発見、早期対応ができる地域づくりを推進します。

成果指標名	現状値	前期目標値
認知症サポーター養成者数（累計）	25,200 人 (R3年度)	31,200 人 (R7年度)

分野別計画

天草市地域福祉計画・地域福祉活動計画、健やか生きいきプラン

ありたい姿

9. 市民が生き生きとやさしさにあふれた地域で暮らしています

政策 21

障がい者（児）の自立と社会参画の推進

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 障がい者自らが生き方を選択し、必要な情報を得るための相談体制の充実が必要です。
- 障がいに対する理解や差別解消に向けた合理的配慮が十分に浸透していない状況です。
- 障がい者の雇用については、障害者雇用促進法で定める法定雇用率が天草圏域では、下回っています。
- 障がい者の団体および家族会等の会員の新規加入が少ない状況です。

課題

- 地域住民や事業者に対して、障がいの特性についての理解を深める必要があります。
- 障がい福祉サービスなどの制度の利用を促進するため、情報を得やすくする必要があります。
- 障がい者が、必要な時に必要な障がい福祉サービスを受けられる体制づくりが必要です。
- ハローワークや関係機関と共に、事業者に対して障がい者雇用を促進する必要があります。
- 障がい者の団体および家族会等の団体活動が停滞しています。

施策計画

1. 障がい者（児）の自立と活動への支援

- 地域で生き生きと生活するために、支援を必要とする障がい者（児）に対して、必要な時に必要なサービスを自らの意思決定のもと利用できる体制を整備します。
- 社会参加しやすい機会を増やすため公共施設の割引を推進し、ミライロID（障がい者手帳アプリ）の活用を推進します。
- 障がい者の就労に関する関係機関の情報共有の場の設定を支援します。
- 障がいの理解促進を図るため、事業者および障がい者団体の活動を支援します。

成果指標名	現状値	前期目標値
障がい福祉サービス利用者数	948人 (R3年度)	1,020人 (R7年度)
就労に関するサービス利用者数	350人 (R3年度)	400人 (R7年度)
就労に関するサービス利用で就労につながった利用者数	6人 (R3年度)	13人 (R7年度)
理解促進研修および啓発事業の参加者数	2,177人 (R3年度)	2,600人 (R7年度)

分野別計画

天草市地域福祉計画・地域福祉活動計画、天草市障がい者計画

この政策が関連する『ありたい姿』

- 2. 多様性を認め合い、互いを尊重するまちになっています
- 10. 安心して子どもを産み育てられるまちができています

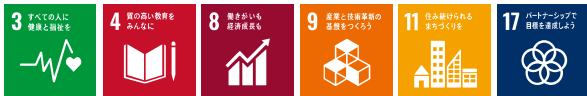
ありたい姿

9. 市民が生き生きとやさしさにあふれた地域で暮らしています

政策 22

スポーツ・運動の推進と交流機会の創出

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 近年、スポーツ実施率は上昇しています。
- 市内には約90団体の社会体育クラブが存在し、小学生のスポーツや運動の受け皿として活動が行われています。
- 市内全域で、高齢者を中心とした43の健康運動教室を市主催で行っています。
- 令和4年にスポーツコミッションを設立し、市民の健康づくりや競技力向上を図り、大会や合宿の誘致による地域活性化に取り組んでいます。
- スポーツ拠点施設の整備を行っています。
(R5.7に400m陸上競技場等が供用開始予定、R6.4に本渡運動公園多目的広場(人工芝：サッカーコート1面)供用開始予定)

課題

- 市内小学生における体力・運動能力調査の数値が、熊本県平均と比較して劣っています。
- 障がい者のスポーツ環境が整備されていないと感じている人が多い状況です。
- コロナ禍等により、健康運動教室参加者の退会者や休会者が増加しています。
- 平成29年度以降、県民体育祭や郡市対抗駅伝の成績(競技力)が低迷しています。
- 市内の多くのスポーツ施設は、経年劣化により老朽化が進んでいます。

施策計画

1. 人・健康・体力づくりの推進

- 市民一人ひとりが、ライフスタイルや目的に応じて、スポーツや運動に親しむことで生涯を通じた健康づくりを推進します。
- スポーツや運動を通して子どもたちの体力の増進や仲間を思いやる心を育み、心身ともに健全でたくましい子どもを育てます。

成果指標名	現状値	前期目標値
週1回以上のスポーツ実施率	59.4 % (R3年度)	64.0 % (R7年度)
小学生(5年生)における新体力テスト数値が県平均値を上回る項目数	3項目 (R元年度)	5項目 (R7年度)

2. 地域・絆づくりの推進

- スポーツや運動を通して人と人が結び付き、地域間の交流が促進され、地域の一体感や活力の醸成につながる取り組みを行います。
- スポーツを支えるボランティア(組織)を育成し、市民参画のもと様々な取り組みを行います。

成果指標名	現状値	前期目標値
市スポーツ協会の種目競技団体が市内で実施する大会の開催数	185大会 (R3年度)	263大会 (R7年度)

3. 大会・合宿誘致の推進と市民と来訪者が交流する機会づくり

- スポーツコミッションが中心となりスポーツ大会や合宿で多くの来訪者を呼び込み、市内の宿泊・観光産業の振興につなげ、地域の活性化を図ります。また、市民とアスリートの交流を図り、市民のスポーツや運動に対する関心度を高めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
スポーツ大会・合宿誘致者数	2,169人 (R3年度)	15,000人 (R7年度)

4. スポーツ・運動を支える基盤の整備

- 競技力の向上に向けて、スポーツ協会等と連携して指導力の高い指導者を養成するほか、スポーツ科学の知見に基づいたサポート等により、競技力を高め心身ともに自律した選手を育成します。
- 多様化するスポーツニーズに対応するスポーツ施設の整備・充実を図ります。
- スポーツ施設の劣化状況等を把握し、計画的な改修等を実施して長寿命化を図るとともに、安全に利用できる施設環境を整備します。
- 多くの市民に対してスポーツ等に関する情報を提供し、スポーツや運動に対する関心度を高めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
日本スポーツ協会公認指導者の登録者数	111人 (R3年度)	135人 (R7年度)
スポーツ施設（社会体育施設、学校体育施設）の年間利用者数	610,876人 (R3年度)	778,000人 (R7年度)
スポーツコミッションボランティア登録者数	0人 (R4年9月)	150人 (R7年度)

分野別計画

天草市スポーツ推進計画

この政策が関連する『ありたい姿』

8. 多様な地域資源を生かし、魅力ある観光のまちがつくられています
10. 安心して子どもを産み育てられるまちができています

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける
行政組織
運営に
まち



ありたい姿

10. 安心して子どもを生み育てられるまちができています

政策 23

妊娠から子育てまで切れ目のない支援

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 子ども医療費の対象年齢の引き上げや保育料の軽減、不妊治療費の助成、妊産婦への生活支援および幼稚園や保育園等における保育サービスの充実を図るなど、子育て支援の取り組みを進めています。
- 少子化や核家族化の進行、地域社会における関係の希薄化、共働き世帯の増加など、変化する社会情勢の中で、子どもを取り巻く環境も大きく変化し、保護者の子育てに対する負担感や不安感が大きくなっています。
- 子育てに関する相談内容は、一般的な育児に関する相談から家庭環境の問題などが複雑に絡み合った相談まで、内容が幅広く複雑で多岐にわたっています。
- 相談体制の強化と窓口の明確化を図るため、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を複合施設こころすの同一フロア内に設置し、妊娠期から子育て期までを一体的に支援しています。
- 妊娠届出や乳幼児健診などの機会をとらえて、すべての対象者に対して子育て支援プランを提案しています。

課題

- 子育て支援は、利用する子育て家庭によってニーズが異なり、ひとり親世帯や特別な支援を要する子どもと子育て家庭等、妊娠期から学校教育を終えるまでの子育て期にかけて、それぞれの課題や成長過程に応じた支援が必要です。
- すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長し、社会性を育み、夢や希望を持ち、目標に向かって自分の能力や可能性を伸ばすには、地域社会全体で子どもと子育て家庭を支え合う取り組みを進めていくことが必要です。

施策計画

1. 妊娠から子育てまで切れ目のない支援の充実

- 妊娠期から子育て期に関する不安や悩みの解消および負担軽減に取り組むことで、安心して妊娠、出産、子育てができるよう支援の充実を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
子育てに係るサービスが充実していると感じる子育て世代の割合	92.5 % (R3年度)	94.0 % (R7年度)

2. 地域で支える子育て支援の推進

- すべての子どもと子育て家庭を、地域住民および社会福祉事業所（社会福祉法人、NPO法人）等、市民との協働により社会全体で支えていく取り組みを推進します。

成果指標名	現状値	前期目標値
子育てしやすい地域であると感じる市民の割合	67.5 % (R3年度)	72.0 % (R7年度)

分野別計画

天草市地域福祉計画・地域福祉活動計画、天草市子ども・子育て支援計画
天草市教育振興基本計画

この政策が関連する『ありたい姿』

13. 天草での暮らしが共感され、多くの人に移住・定住し暮らしています

ありたい姿

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

政策 24

生活基盤を支える機能的な道路・河川・港湾の整備

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 国道および県道は、各地域を結び観光並びに経済の面で重要な役割を果たしています。
- 市道は、幹線道路と集落を結ぶ重要な生活道路として利用されています。
- 天草全域の市道に橋梁1,119、トンネル17が存在し集落を結ぶ重要な施設となっています。
- 市民交通の安全性向上のため、交通安全施設の整備や補修を実施しています。
- 利便性・安全性向上のため、生活道路等の改良や維持補修を実施しています。
- 一部の市道については、市道清掃ボランティア支援事業で市民の自発的な活動により、安全で快適な道路環境を整備しています。
- 熊本天草道路整備においては、事業は進捗していますが、依然としてルートが未定の区間もあり、未施工区間が多くあります。
- 市管理河川は637河川、延長約608kmあり、維持管理や改修工事などは、集落地やその周辺部を優先的に実施しています。
- 市管理港湾は20港あり、主に水陸交通の物流・人流の連絡拠点として利用されています。
- 海岸保全施設は、高潮・波浪等の災害から人命等を守る施設として整備しています。
- 近年の異常気象による浸水被害や土砂災害等が増加しており、災害の発生を最小限にとどめるため河川・道路等各公共施設の日常的な維持管理を適切に行うとともに、災害時の迅速な現場対応を図るため各関係機関の協力のもと、大規模災害時の支援活動等の協定を締結するなどの取り組みを推進しています。

課題

- 国道および県道の整備、生活拠点間主要市道の改良や重要構造物（橋梁・トンネル等）の補修については、長寿命化計画を基に整備を進めていますが、市民の要望や期待度は高い状況です。
- 交通安全施設は、経年劣化による老朽施設が多く、計画的な整備更新が課題となっています。

- 生活道路等の改良や維持補修については、市民の要望や期待度は高いものの、一度に実施できないため、十分な事業進捗が図られていない状況です。
- 市道清掃ボランティア支援事業では、人口の減少や高齢化によって、今後取組団体の減少が懸念されます。
- 熊本都市圏と県内主要都市を90分で結ぶ構想では、天草地域だけが県内唯一の未達成地域となっており、事業化された熊本天草幹線道路計画全線(約70km)の整備を加速化するためには、国・県への整備要望を継続する必要があります。
- 天草地域は交通幹線ルートが限られており、緊急輸送機能を有した代替道路の確保が求められています。
- 膨大な河川延長のため、豪雨時には道路への冠水により、交通機能が阻害される場合があります。
- 港湾施設長寿命化計画および定期点検診断により、港湾328施設のうちA判定が29施設、港湾海岸保全施設230施設のうちA判定が42施設となっています。今後は、この計画を基に点検・修繕等の維持管理に関する方針を定め、ライフサイクルコストの縮減を図る必要があります。
- 大規模災害の発生では、被災状況から応急対応並びに復旧事業の実施においては、時間を要する場合があります、生活に支障となる道路等公共施設については、早急な対応が求められます。

施策計画

1. 陸上交通基盤の充実

- 国県道の整備については、予算の確保に向けた要望活動の強化を図ると共に、交付金事業における市道改良については、予算の効率的な執行により事業進捗を図ります。
- 熊本天草幹線道路の早期の全線開通に向け、積極的な要望活動を重ねていくとともに、地域の機運を高めるためのアピール活動に取り組みます。
- 重要構造物の補修については、長寿命化計画に基づき、計画的な事業進捗を図ります。
- 生活道路等については、優先順位など考慮し、効率的に事業を実施します。
- 市道清掃ボランティア事業は、これまでも活動報告等事務の簡素化や団体構成人数基準の緩和など見直しを行っていますが、活動団体等の意見を聞きながら取組みやすい制度の構築を目指します。
- 市民の生活に密着している道路等公共施設については、日常の適切な維持管理を図りながら機能保全に努め、災害防止を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
市道改良実績(累計)	66箇所 進捗12% (R4年度当初)	267箇所 進捗100% (R7年度)

2. 河川機能の充実

- 豪雨時の氾濫防止対策のため、準用河川・普通河川において優先順位を付けて堆積土砂等の撤去を実施します。

成果指標名	現状値	前期目標値
河川掘削事業実績（累計）	2,595 m ² (R3年度)	42,595 m ² (R7年度)

3. 港湾施設の充実

- 施設の安全性・利便性向上のため、長寿命化計画に基づき、優先順位を明確にし、事業に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
長寿命化計画に基づく港湾施設改修工事実績（累計）	6 施設 (R3年度)	9 施設 (R7年度)

この政策が関連する『ありたい姿』

12. 市民との協働による安心安全なまちづくりができています

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける行政運営
にまち



ありたい姿

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

政策 25

良好なまちなみの形成

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 都市計画マスタープラン、天草市景観計画、その他の関連計画と併せた効果的な都市施設の整備を行っています。
- 土地利用の規制、誘導や多様な地域資源等を有効活用した良好なまちなみの形成に取り組んでいます。
- 公園施設の老朽化対策および維持管理を行っています。
- 都市計画道路の整備を行っています。
- 主要な港湾を利用したまちづくりに向けた環境整備に取り組んでいます。

課題

- 秩序ある適正な土地利用が必要です。
- 都市計画道路、公園など都市施設を中心とした地域の活性化が必要です。
- 天草市景観計画の啓発による景観意識の高揚が必要です。
- 国立公園に指定された豊かな自然、歴史、文化など天草の特性を生かした、良好なまちなみ景観の創出が必要です。
- 花いっぱい運動の推進等によるまちなみの景観形成が必要です。
- 地域協働による公園管理が必要です。
- 都市計画道路整備事業の円滑な事業推進が必要です。
- 主要な港湾の周辺環境整備にあたっては、これからのあるべき姿を明確化し、計画的な事業展開が必要です。

施策計画

1. まちなみの形成

- 都市の骨格をなす都市計画道路の効果的な整備を促進し、暮らしやすい安心安全なまちづくりを図ります。
- 土地利用の規制や誘導により、地域に適した取り組みを目指します。
- 豊かな自然、歴史、文化など天草の特性を生かした良好な景観形成についての住民意識の高揚を図ります。
- 公園施設長寿命化計画に基づいた改修を行うことにより、安全性や利便性の向上を図ります。
- 地域協働による公園施設の維持管理に取り組み、快適な公園環境の維持に努めます。
- 主要な港湾が新たな交流・情報拠点となることを目指し、周辺環境を含めた整備に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
良好なまちなみの景観が形成されていると感じている市民の割合	56.4 % (R3年度)	66.1 % (R7年度)

分野別計画

天草市都市計画マスタープラン、天草市景観計画

この政策が関連する『ありたい姿』

4. 歴史と文化を認め合い、天草に誇りを持ち継承されています

ありたい姿

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

政策 26

住みやすい住環境の整備

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 天草市公営住宅等長寿命化計画に基づいて、長寿命化、安全性の確保、居住性の向上のための改修事業を実施しています。
- 耐用年数が経過し老朽化が著しい住宅については、入居者の退去に伴い用途廃止（解体）、譲渡を行っています。
- 持家者の高齢化率が高いことから、自宅の老朽に伴い市営住宅への転居者が増えています。
- 市営住宅の高齢者、子育て世帯等に対応した改修整備が遅れています。
- 平成25年度調査時点では3,220棟の空き家が報告されており、そのうち、645棟が危険家屋と判断されています。
- 熊本地震をはじめ、大規模地震が頻発する中、昭和56年5月以前に建てられた耐震性が不明の建物が多数あります。

課題

- 昭和55年までの高度成長期に核家族、子育て勤労者世帯のために建設された市営住宅が835戸と全体の46%を占めており、また、老朽化が進み耐用年数を経過した市営住宅が481戸と全体の26.5%であることから、計画的なストック改修事業、用途廃止、建替えを行う必要性があります。
- 地区によって人口減少、世帯数減少が顕著で、市営住宅の必要性を考慮する必要があります。
- 特に希望が多い、高齢者、子育て世帯に対応した改修事業への対策が必要です。
- 年間100件程度の管理不適格家屋の相談を近隣住民より受けています。
- 大規模地震の発生に備え、大規模盛土造成地では耐震性を早急に検証し、被害軽減を図る必要があります。
- 木造住宅は、建築年において耐震性の有無を診断する必要があり、診断の結果、耐震性が無い場合、補強若しくは建替える必要があります。

施策計画

1. 公営住宅等の管理

- 天草市公営住宅等長寿命化計画に基づき、公営住宅の改修事業および用途廃止等を実施します。

成果指標名	現状値	前期目標値
市営住宅等改修進捗率	78.2 % (R 3 年度)	100 % (R 7 年度)
市営住宅等用途廃止進捗率	55.0 % (R 3 年度)	73.5 % (R 7 年度)

2. 建築物の安全・安心の推進

- 地震ハザードマップの配布による地形や地盤状況の周知を行います。
- 木造住宅においては、必要に応じて耐震診断、改修、建替え等へ係る経費の補助を行います。

成果指標名	現状値	前期目標値
耐震改修促進事業活用件数	4 件 (R 3 年度)	5 件 (R 7 年度)

3. 空き家対策

- 老朽危険家屋等解体補助を行います。
- 管理不適格家屋所有者への適正管理の通知を行い、適正管理を促します。
- 移住定住政策との連携による空き家の有効活用を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
老朽危険家屋の指導により改善された件数	4 件 (R 3 年度)	5 件 (R 7 年度)
老朽危険家屋等解体補助金を利用した件数	44 件 (R 3 年度)	45 件 (R 7 年度)

分野別計画

天草市住宅マスタープラン、天草市建築物耐震改修促進計画、天草市空家等対策計画

この政策が関連する『ありたい姿』

13.天草での暮らしが共感され、多くの人に移住・定住されています

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける行政運営
取り組むまち



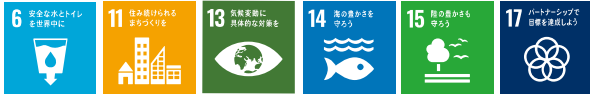
ありたい姿

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

政策 27

安心して持続可能な上下水道の整備

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 過疎化や人口減少、節水機器の普及による使用水量が減少するとともに、料金収入が減少しています。
- 物価上昇により維持管理費が増大しています。
- 施設の老朽化により更新時期が到来しています。
- 上下水道ともに地方公営企業会計で合理的な経理を実施しています。
- 上下水道などのライフラインに影響を及ぼす大規模自然災害が増加しています。
- 地下水や沢水・湧水などを利用している地域があります。
- 生活排水を集合処理施設で処理できない区域があります。

課題

- 事業を維持するため収入の確保が必要です。
- 施設の老朽化および耐震化に伴う設備投資が必要です。
- 今後増加する施設の更新に伴い、職員の育成と水道技術の継承が必要です。
- 大規模自然災害に備えるため、耐震・耐水化の対策が必要です。
- 施設の老朽化に伴う更新計画の定期的な見直しと適切な実施が必要です。
- 上水道による給水が困難な地域は、水質異常や水不足への対策が必要です。
- 生活環境の保全と公共水域への生活排水の流入抑制が必要です。

施策計画

1. 暮らしを守る上水道の整備

- 計画的な老朽管布設替えに合わせ耐震化を進めます。
- 災害に強いライフラインの整備を進めます。
- 上水道による給水が困難な地域は、小規模水道施設整備補助事業により暮らしの水を確保します。

成果指標名	現状値	前期目標値
水道管路の耐震化率	12.5 % (R3年度)	13.4 % (R7年度)

2. 適正な下水道施設の更新

- 施設の老朽化に伴う更新計画に基づき施設の整備を行います。
- 下水道整備区域外は、浄化槽の設置を支援し、生活環境の保全に努めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
下水道施設の老朽化の改善率	0 % (R5年度当初)	8.8 % (R7年度)

分野別計画

天草市水道事業ビジョン

この政策が関連する『ありたい姿』

12. 市民との協働による安心安全なまちづくりができています

ありたい姿

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

政策 28

情報通信環境の格差解消と情報化の推進

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 情報通信環境格差解消のため、ADSLのみの通信環境となっている地域の光ファイバー整備を行っているほか、市で整備した光ファイバーの空き芯の貸出しを通信事業者等へ行っています。
- 情報基盤ツールの一つとして、市民の情報交流ツールである「天草Webの駅」を運用しています。
- 携帯電話不感エリアの早期解消のため、関係機関へ要望を行っています。
- 天草市コミュニティFMの難聴対策のための整備を行っています。

課題

- 情報通信基盤整備の対象とならない点在する世帯への光ファイバーに代わる手段の整備が必要です。
- 情報通信基盤整備の対象となっていないケーブルテレビインターネット（同軸）エリアの光ファイバー整備が必要です。
- 整備された情報基盤を、地域課題解決のためどのように利活用するのか検討が必要です。
- 天草市コミュニティFMの難聴対策を行ったが、地形によっては電波の受信しにくい地域が未だに存在しています。
- 採算性の問題から、中山間地域等の条件不利地域において、携帯電話事業者による携帯電話不感エリアの解消と5Gのエリア化が進まないことが見込まれます。

施策計画

1. 情報通信環境の整備

- 光ファイバーによるインターネット環境を整備する事業者を支援し、環境の整備を図っていきます。
- 維持管理費等への懸念から光ファイバーによるインターネット環境の整備ができない地域への支援を行います。
- 本市の光ファイバーケーブルの通信事業者等への貸し出しによって、利活用を推進し、情報通信環境の向上を図ります。
- 市民の情報交流ツールである「天草Webの駅」の利活用を引き続き推進します。
- 携帯電話不感エリアの早期解消と5G基地局整備の働きかけを、関係機関に継続して行います。

成果指標名	現状値	前期目標値
光インターネットエリア世帯カバー率	83.8 % (R3年度)	98.2 % (R7年度)
光ファイバー空き芯民間等貸出利用件数	49 件 (R3年度)	53 件 (R7年度)

2. 天草市コミュニティFMの難聴対策

- FM放送の情報取得が容易にできるよう、既存設備の適正な運用管理と、さらなる難聴地域の解消に向けた対策を行います。

成果指標名	現状値	前期目標値
送信設備整備箇所	13 箇所 (R3年度)	17 箇所 (R7年度)

分野別計画

天草市地域情報化計画

この政策が関連する『ありたい姿』

- 12. 市民との協働による安心安全なまちづくりができています
- 13. 天草での暮らしが共感され、多くの人に移住・定住されています

ありたい姿

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

政策 29

公共交通による移動利便性の確保

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 市内には、路線バス、コミュニティバス、タクシー、フェリー、旅客船、海上タクシー、飛行機などの多様な交通機関があり、通勤・通学・通院、買い物などの日常生活において、必要不可欠な公共交通として、重要な役割を担っています。
- 海に囲まれる天草地域では、産業や観光、地域振興のほか、地域医療に必要な医師の確保にも、フェリーや飛行機などの公共交通が寄与しています。
- 人口減少や少子高齢化による利用者の減少、運転手・操縦士等の人材不足、バスやタクシーなどの車両やフェリー、航空機体の老朽化など公共交通を取り巻く環境は、さらに厳しい状況になりつつあります。

課題

- 人口減少や少子高齢化により利用者が減少する中で、公共交通の維持確保とともに、地域の移動ニーズに即した持続可能な公共交通ネットワークの構築が求められています。
- 公共交通に乗って守るという市民の意識を醸成することで、利用者の維持・増加を図る必要があります。

施策計画

1. 多様な交通サービスの連携による持続可能な公共交通の維持確保

- 広域拠点（本渡）と地域拠点（牛深）、生活拠点（五和・新和・河浦・天草・有明・栖本・倉岳・御所浦）をつなぐ公共交通の維持確保を図るとともに、市内外をつなぐ交通機関と連携を図ります。
- 多様な交通サービスの組み合わせにより、各生活圏域内の移動ニーズや地域の実情に応じた公共交通施策を展開します。

成果指標名	現状値	前期目標値
路線バス等の利用者数	287,867 人 (R3年度)	300,000 人 (R7年度)
航路の利用者数	180,072 人 (R3年度)	270,000 人 (R7年度)
航空路の利用者数	39,374 人 (R3年度)	77,600 人 (R7年度)

2. 行政・交通事業者・市民等の協働による公共交通の利用促進

- 乗って守る公共交通への意識を高めるため、住民への周知啓発や利用者の増加・維持につながる取り組みを、交通事業者と連携して推進します。

成果指標名	現状値	前期目標値
利用促進事業等に参加した市民の数	146 人 (R3年度)	150 人 (R7年度)

分野別計画

天草市地域公共交通計画

ありたい姿

12. 市民との協働による安心安全なまちづくりができています

政策 30

災害に強いまちの形成

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 近年の異常気象によって浸水被害や土砂災害等が増加しています。
- 土砂災害および浸水の想定区域や避難所等を表示した総合防災マップを作成、全戸に配布しています。
- 天草市一斉避難訓練および地域独自の避難訓練等を実施し、防災講話や実技指導の講師として市職員・消防署員・熊本県職員等を派遣しています。
- 防災行政無線の整備（戸別受信機含む）により、本庁での一体的な運用と全国瞬時警報システム（J-ALERT）との自動接続を行っています。
- 業務継続計画（BCP）に基づき、災害発生時にあっても優先的な業務を特定し、適切な業務執行ができる体制を整えています。

課題

- 災害時には多重多様な情報伝達手段を用いて、災害情報や避難情報等が市民に確実に届き、情報発信漏れや逃げ遅れ等を防ぐ必要があります。
- 大規模災害時には、行政の対応には限界があり、自助・共助の取り組みと支援体制の充実が求められています。
- 自主防災組織を中心とした地域の防災力を高める必要があります。

施策計画

1. 地域ぐるみの防災活動の推進

- 防災行政無線戸別受信機の全戸設置や天草市安心・安全メールの登録、コミュニティFMの聴取等、全市民があらゆる情報収集手段を取得できるよう広報等に取り組みます。
- 一斉避難訓練や独自訓練について、総合防災マップを活用した図上訓練および実践的な訓練に取り組みます。
- 自主防災組織活動充実のため、防災リーダーを育成し、地域防災力の向上を推進します。
- 地域と連携した効率的かつ効果的な避難所の運営に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
防災士数（累計）	122人 (R4年5月)	180人 (R7年度)

2. 災害時の支援体制の充実

- 災害時応援協定締結団体との連携強化を図るとともに、新たな分野の防災関係機関との応援協定締結を推進します。
- 適宜、地域防災計画の見直しを行うとともに、業務継続計画（BCP）の定期的な見直しも行い、また、訓練を通して計画の充実を図っていきます。

成果指標名	現状値	前期目標値
災害時応援協定数（累計）	44件 (R3年度)	50件 (R7年度)

分野別計画

天草市地域防災計画

この政策が関連する『ありたい姿』

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

ありたい姿

12. 市民との協働による安心安全なまちづくりができています

政策 31

消防・救助・救急体制の充実

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 消防団員は、市民の生命、身体、財産を火災や災害から守ることと、団員としての質の向上を目的として、各種訓練を計画的に実施し、必要な知識・技術習得の研鑽に努めています。
- 消防格納庫、防火水槽、消火栓を整備し、初期消火の体制の強化を行っています。
- 天草広域連合消防本部と連携した消防、救急、救助体制の強化に取り組んでいます。

課題

- 地域の消防・防災の要である消防団員数が減少しており、入団促進と活動しやすい環境整備を行っていく必要があります。
- 消防資機材等の更新、防火水槽や格納庫の整備など、消防施設の充実強化は、迅速な初期消火活動および防火活動に必要不可欠であり、今後も計画的に進めることが必要です。

施策計画

1. 消防・救助・救急体制の整備

- 消防団員の確保については、活動への事業所の理解と協力を得るため、消防団による地域事業所訪問を行い、従業員の勧誘活動に取り組みます。
- 消防設備、資機材については、更新や修繕、改修等による計画的な整備を図るとともに、定期的な点検を行うことによる長寿命化に取り組みます。
- 天草広域連合消防本部と連携し、更なる消防・救助・救急体制の強化に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
消防団員数	2,667 人 (R 3 年度)	2,500 人 (R 7 年度)

分野別計画

天草市地域防災計画

この政策が関連する『ありたい姿』

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

ありたい姿

12. 市民との協働による安心安全なまちづくりができています

政策 32

防犯・交通安全・消費者保護対策の推進

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 犯罪のないまちづくりを目指し、防犯に対する様々な事業を実施しており、犯罪認知件数は減少傾向で推移しています。
- 交通事故防止を図るため、交通安全に対する様々な事業に取り組み、交通事故件数は減少傾向で推移しています。
- 消費者被害の未然防止と救済に向け、市民が気軽に消費生活相談を受けられるよう天草市消費生活センターを設置し、複雑・多様化する消費生活問題を解決するための支援を行っています。

課題

- 依然として空き巣や窃盗等の街頭犯罪・侵入犯罪が一定数発生しているため、犯罪抑止に向けたパトロールおよび見守り体制の強化が必要です。
- 薄暮時における無灯火車や、横断歩道の一時停止義務違反など、人身事故につながりかねない事案への対策が必要です。
- 年々悪質巧妙化している消費者詐欺の被害防止のため、年代にあった効果的な周知・啓発並びに支援体制の充実を図る必要があります。

施策計画

1. 防犯対策の推進

- 防犯ボランティア団体の結成や充実に向け、防犯協会と連携した支援を行います。
- 関係機関（警察署、防犯協会、地区振興会、防犯ボランティア団体等）との連携を強化し、犯罪の未然防止に努めます。
- 防犯カメラの普及促進並びに市安心・安全メールや市政だより等を活用し、防犯情報の発信と啓発活動に努めます。
- 行政区への防犯灯設置支援並びに通学路への防犯灯の設置により、夜間における犯罪、事故等の未然防止および安心・安全の向上を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
犯罪認知件数	98 件 (R 3 年)	64 件 (R 7 年)

2. 安全な交通環境の充実

- 交通事故を防止するため、参加・体験・実践型の交通安全教育の推進に取り組みます。
- 歩行者および通行車両の安全確保や事故防止を図るため、反射材用品等の普及に努めます。
- 関係機関（警察署、交通安全協会、安全運転管理者等協議会等）との連携を強化し、地域に根差した交通安全の各種課題の解決に取り組みます。
- 「通学路安全対策連絡協議会」との連携により、通学路の交通安全施設の整備を進め児童生徒、地域住民の安全性の向上に努めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
交通事故発生件数	66 件 (R 3 年)	54 件 (R 7 年)

3. 消費者保護の推進

- 年々悪質巧妙化する消費者被害の未然防止と救済に向け、関係機関と情報の共有化を図り、消費者トラブルにあわないための啓発活動（出前講座等）および消費生活全般にわたる相談受付や助言を行います。
- 配慮を要する高齢者等の被害防止と救済活動のため、関係機関と連携して見守り支援体制の充実を図ります。
- 弁護士無料法律相談会を開催し、多重債務問題や法律上の悩みを抱える市民の不安解消に努めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
消費生活啓発講座の参加者数	311 人 (R3 年度)	541 件 (R7 年度)

分野別計画

天草市交通安全計画

この政策が関連する『ありたい姿』

11. 市民が安心して暮らせる環境ができています

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける
行政運営
に



ありたい姿

13. 天草での暮らしが共感され、多くの人が移住・定住し暮らしています

政策 33

魅力ある天草への移住・定住促進

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 田舎暮らしに憧れ、地方への移住を希望する人が増加しています。
- 漠然と移住を考える段階から、具体的な移住先の検討を進める移住希望者が増えています。
- 都市部の企業においては、テレワークやワーケーションなどを推進しています。
- 自然環境に加え、子育て支援策の充実など、本市の施策が移住を決定する魅力となっています。
- 空き家等情報バンク制度の推進により、移住希望者等によって空き家が有効に活用されています。
- 移住者との交流により地域活性化が図られています。

課題

- 増加する移住相談並びに、住まいや就労など多様化する相談ニーズへの対応が必要です。
- 空き家等情報バンクに登録する空き家等の物件確保が必要です。
- 移住後に地域に溶け込むための支援が必要です。

施策計画

1. 受入れ体制の充実とつながりの深化による移住・定住の推進

- 都市部等における移住関連イベントへの参加や市独自の移住セミナー、移住体験ツアーを開催します。
- 移住・定住コーディネーターによるきめ細かな相談対応と業務の効率化を図るため相談記録等のシステム化に取り組みます。
- AIやSNSを活用した相談体制の充実に取り組みます。
- 空き家等情報バンクへの登録を促すため、物件所有者等への周知や地域との連携を図ることで登録物件の確保に取り組みます。
- 「ハローワーク」や「ジョブカフェ・天草ランチ」と連携し、移住者への求人情報の提供に取り組みます。
- 移住に関連する施策を展開する部署と連携した情報発信に取り組みます。
- 移住・定住サポーター登録者の増加による移住後のフォロー体制の充実に図ります。
- 移住漠然層に情報を届けるため、ふるさと住民登録の推進と関係人口の取り組みの充実に図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
移住者の人数（平成20年度からの累計）	824人 (R3年度)	1,200人 (R7年度)

分野別計画

天草市移住・定住促進計画

この政策が関連する『ありたい姿』

- 5. 良質な農林水産物が生産され、産地力（生産者数×量）が維持・向上されています
- 6. ひとつづくり・ものづくりで郷土にやりがいを感じ、働ける場所があります
- 10. 安心して子どもを産み育てられるまちができています